

科目名	基礎看護Ⅴ (環境・活動・休息援助技術)				DP1、DP2、DP3 DP4、DP6		看護高等課程
学年	1年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	30時間	担当教員	専任教員
科目概要	基礎看護技術として環境調整技術と共に、対象の生活の要素である活動・休息と健康の関わりを理解する。また、事故防止の基本的知識を通して、基本的欲求が充足できるよう科学的根拠に基づいた日常生活援助技術が安全に提供できるように、演習を多く取り入れた。 脳神経・筋の解剖生理と関連させ、「動く」生活行動へ結びつける。						
到達目標	1. 健康的な日常生活を作りだす必要条件を説明できる。 2. 対象者の日常生活を見つめる看護の視点を述べるができる。 3. 対象者の日常生活への援助（環境・活動・休息）が実施できる。 4. 災害時の対応、誤薬防止、患者誤認防止、転倒転落防止について理解できる。						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1～15	日常生活行動の援助技術	日常生活を援助することの意義、日常生活の援助を行ううえでの留意点				講義	専任教員
	環境調整の援助	環境とは何か、療養環境の調整、日常生活と住環境の基礎知識、生活環境の基礎知識、入院患者の生活環境 病床環境の調整、ベッドメイキング、リネン交換				講義 演習	
	環境調整の援助	環境調整の実際				講義 演習	
	活動の援助	活動のメカニズム、姿勢と動作（ボディメカニクス）、 安楽な体位の保持、体位変換、関節可動域訓練、良肢位、 移動・移送の援助、活動を促す援助、移動（移動・移送）の援助、 ストレッチャーによる移送、歩行介助				講義 演習	
	休息の援助	休息の援助、睡眠への援助				講義	
	活動・休息の援助	活動・休息の援助の実際				試験	
	安全・安楽 事故防止のための援助	病院における事故、災害とその対策、転倒・転落防止、 誤薬防止、患者誤認防止、抑制法、インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告				講義	
	試験					試験	
評価基準	下記評価方法によって100点満点とし6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。 また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。						
教科書	新看護学 6 基礎看護 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新看護学 7 基礎看護 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護後術 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							